

みんなが見たい^み優品展^{ゆうひんてん}パート 20 ^{なかむら ふ せつ}中村不折コレクションから

「^{りゅうもん に じっぴん}龍門二十品 ^{ほくちょう しょ ちゅうしん}—北朝の書を中心に—」 展示一覧

令和7年 4月1日(火) ~ 7月13日(日)

前期展示 令和7年 4月 1日(火) ~ 5月25日(日)

後期展示 令和7年 5月27日(火) ~ 7月13日(日)

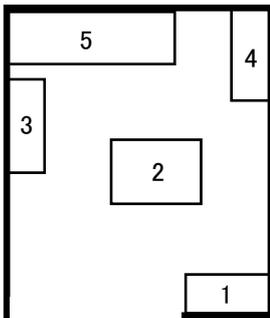
「龍門二十品」とは、中国三大石窟の一つである龍門石窟に刻された造像記の中から、優れた二十種を選んだものです。「龍門二十品」は、北魏時代の楷書の力強さと豊かさが存分に発揮されています。また、書道博物館創設者である中村不折が、書道研究を志す契機となった清国滞在中に入手した拓本でもあり、その後の不折の書道研究における方向性や不折自身の書風にも大きく寄与しました。

本展では、「龍門二十品」をはじめとする北魏時代の石刻拓本や敦煌写本など、北朝の書を中心に紹介し、中村不折が北朝の書の影響を受けた作品もあわせて展示いたします。

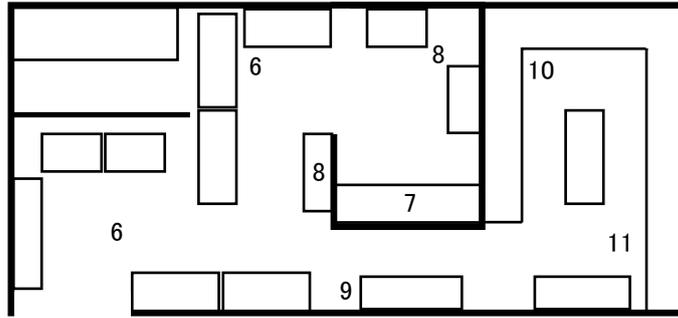
中村不折記念館

展示のごあんない

1F



2F



- 1 南北分裂 —4世紀—
- 2 北魏時代初期の書 —5世紀—
- 3 南朝の書 —4~6世紀—
- 4 北魏時代後期の書 —6世紀—
- 5 鄭道昭の書として伝わる摩崖
- 6 龍門二十品とその周辺
- 7 龍門四品
- 8 北朝の肉筆 —4~7世紀—
- 9 北魏時代以後の北朝の書
- 10 北魏時代の書 —整本—
- 11 中村不折と龍門二十品

※施設の都合上、順路が複雑になっております。

【 1F 第1展示フロアー 】

【 展示ケース 】

1 南北分裂 —4世紀—

こうぶしょうぐんひ
広武將軍碑

五胡十六国時代(前秦)・建元4年(368)

2 北魏時代初期の書 —5世紀—

ちゅうがくすうこうれいびようひ
中嶽嵩高靈廟碑
きふくじひ
暉福寺碑

北魏時代・太安2年(456)

北魏時代・太和12年(488)

3 南朝の書 —4～6世紀—

がっきろん
樂毅論
しやうたんひ
蕭愴碑

おうぎし
王羲之(303～361)筆／東晋時代・永和4年(348)

ばいぎえん
貝義淵(6世紀頃)筆／梁時代・普通3年(522)以後

4 北魏時代後期の書 —6世紀—

前期 こうけいひ
高慶碑
後期 せきもんめい
石門銘
後期 なんせつくつじひ
南石窟寺碑
前期 ちやうもうりようひ
張猛龍碑

北魏時代・正始5年(508)

おうえん
王遠(5～6世紀)筆／北魏時代・永平2年(509)

北魏時代・永平3年(510)

北魏時代・正光3年(522)

【 大型展示ケース 】

5 鄭道昭の書として伝わる摩崖

ていぎじやうひ
鄭羲上碑
ていぎかひ
鄭羲下碑
ろんけいしよし
論經書詩

ていどうしやう
鄭道昭(?～516)筆／北魏時代・永平4年(511)

鄭道昭 筆／北魏時代・永平4年(511)

鄭道昭 筆／北魏時代・永平4年(511)

【 2F 第2展示フロアー 】

6 龍門二十品とその周辺

二十品 ぎゅうけつぞうぞうき
牛橛造像記
二十品 ほっかいおうげんしやうぞうぞうき
北海王元詳造像記
二十品 ていちやうゆうぞうぞうき
鄭長猷造像記
二十品 こうじゆかいはくととうぞうぞうき
高樹解伯都等造像記
二十品 がらんかんぞうぞうき
賀蘭汗造像記
二十品 びくほうしやうぞうぞうき
比丘法生造像記
二十品 こうせんおうそほたいひこうぞうぞうき
広川王祖母太妃侯造像記
二十品 ほっかいおうこくたいひこうぞうぞうき
北海王国太妃高造像記
二十品 びくどうしやうぞうぞうき
比丘道匠造像記
二十品 あんていおうげんしやうぞうぞうき
安定王元燮造像記
二十品 せいぐんおうゆうぞうぞうき
齊郡王祐造像記
二十品 びくにじこうえしやうぞうぞうき
比丘尼慈香慧政造像記

北魏時代・太和19年(495)

北魏時代・太和22年(498)

北魏時代・景明2年(501)

北魏時代・景明3年(502)

北魏時代・景明3年(502)

北魏時代・景明4年(503)

北魏時代・景明4年(503)

北魏時代・太和19年～正始元年(495～504)

北魏時代・景明年間(500～503)

北魏時代・正始4年(507)

北魏時代・熙平2年(517)

北魏時代・神龜3年(520)

りゅうもんざんほくぎ だいいめい
龍門山北魏題名
こようどうだい き
古陽洞題記

北魏時代・4～6世紀

とくりん
徳林(1798頃～1875)筆／清時代・同治9年(1870)

【 2F 特別展示室 】

7 龍門四品

前期 **二十品** 始平公造像記

しゅうぎしやう
朱義章(5～6世紀)筆／北魏時代・太和22年(498)

前期 **二十品** 楊大眼造像記

北魏時代・景明元年(500)頃

後期 **二十品** 孫秋生造像記

しやうけんけい
蕭頭慶(5～6世紀)筆／北魏時代・景明3年(502)

後期 **二十品** 魏靈藏造像記

北魏時代・景明年間(500～503)

二十品 魏靈藏造像記

北魏時代・景明年間(500～503)

【 2F 特別展示室 ～ 中村不折記念室手前 】

8 北朝の肉筆 —4～7世紀—

前期 **【重要文化財】** 仏説菩薩藏經卷第一殘卷

ぶつせつ ぼ さつぞうきやうかんだいいちざんかん
北涼時代・承平15年(457)

後期 大般涅槃經卷第四十

だいぱんねはんきやうかんだい しじゅう
北魏時代・正始2年(505)

後期 觀世音經

かんぜおんぎやう
北魏時代・孝昌3年(527)

前期 律藏初分卷第十四

りつぞうしよぶんかんだいじゅうし
北魏時代・普泰2年(532)

前期 大般涅槃經卷第八

だいぱんねはんきやうかんだいはち
西魏時代・大統14年(548)

後期 **【重要文化財】** 抱朴子内篇卷第一殘卷

ほうぼくし ないへんかんだいいちざんかん
北周時代・6世紀

9 北魏時代以後の北朝の書

前期 劉平周造像記

りゅうへいしゅうぞうぞうき
北魏時代・孝昌3年(527)

後期 高湛墓誌銘

こうたん ぼ しめい
東魏時代・元象2年(539)

朱岱林墓誌銘

しゅたいりん ぼ しめい
北齊時代・武平2年(571)

【 2F 中村不折記念室 】

10 北魏時代の書 —整本—

こうしゅうれいざん じしゃりとうかめい
光州靈山寺舍利塔下銘

北魏時代・太和元年(477)

霍揚碑

かくようひ
北魏時代・景明5年(504)

曹望愷等造像碑

そうぼうき とうぞうぞうひ
北魏時代・正光6年(525)

但司馬王妙祖等造像銘

たんし ぼ おうみやう そとうぞうぞうめい
北魏時代・5～6世紀

前期 王銀堂等造像碑

おうぎんどうとうぞうぞうひ
北魏時代・5～6世紀

後期 吳氏造像碑

ごしぞうぞうひ
北魏時代・5～6世紀

11 中村不折と龍門二十品

後期	二十品	かいはくたつぞうぞう き 解伯達造像記 りゅうもん に じっしゅ きゅうしゅ 『龍門二十種 九種』所収)	北魏時代・太和19年～23年(495～499)
前期	二十品	びく え かんぞうぞう き 比丘惠感造像記 『龍門二十種 九種』所収)	北魏時代・景明3年(502)
前期	二十品	いちふつぞうぞう き 一弗造像記 ぎ ひ じゅうし ひん 『魏碑 十四品』所収)	北魏時代・太和20年(496)
後期	二十品	う でんのうぞうぞう き 優填王造像記 『魏碑 十四品』所収)	唐時代・7～10世紀
後期	二十品	りょうさつはっしゅ 始平公造像記 『龍門二十種 兩冊八種』所収)	朱義章(5～6世紀)筆／北魏時代・太和22年(498)
前期	二十品	りゅうみんじょう 孫秋生造像記 『龍門二十種 兩冊八種』所収)	蕭顛慶(5～6世紀)筆／北魏時代・景明3年(502)
		りゅうみんじょう 『龍眠帖』(複製)	なかむら ふ せつ 中村不折(1866～1943)筆／明治41年(1908)
		ちようこくしんずい だい じ 『彫刻真髓』題字	中村不折 筆／明治44年(1911)
		さんせんうえはらせんせいはいとく ひ 三川上原先生懷德碑	中村不折 筆／大正元年(1912)
		かいしよせん じ もん 『楷書千字文』	中村不折 筆／大正8年(1919)
		りゅうみん 『龍眠』第4 2巻	大正7年(1918)
		『龍眠』第4 3巻	大正7年(1918)
		しらとりせんせい ひ 白鳥先生碑	中村不折 筆／昭和2年(1927)
		かいしよ よ じ へきじゃげいふく がく 楷書四字「辟邪迎福」額	中村不折 筆／大正～昭和時代・20世紀
		れいしよ ご こんぜつ く じく 隸書五言絶句軸	中村不折 筆／大正～昭和時代・20世紀

本 館 (東京都指定史跡)

書道博物館本館(第1・3・4・5展示室)では、玉器・陶器・瓦当・石碑・墓誌・仏像・甲骨文・青銅器・璽印など、日本・中国書法史上特に重要な紙本以外の金石類に見られる文字資料を常設展示しています。

※このパンフレットの複写は固く禁じます。

台東区立書道博物館